

私たちは、「勉強っておもしろい！」を目指して、子どもたちが主体的に学習に取り組む態度の育成を目指します。そのために、以下のような授業展開を行います。

- ① 学習のめあてを子どもが作る→教科書や先生が示した学習のめあてだけで授業を始めるのではなく、子どもが毎時間、自分で自分の学習のめあてを考えることができるようにする。
- ② 学習過程を子どもが作る→指導書や先生が示した学習予定だけで学習を進めるのではなく、子どもが自分で学習過程を考えることができるようにする。
- ③ 分かるまで(できるようになるまで)何度でも自分の学習を振り返り、もっと良い学習の仕方はないかを自分で考え、学習過程を修正しながら繰り返し課題に取り組むことができるようにする。

指導方法の課題分析と具体的な授業改善策(平成30年度)

第5学年

立川市立第一小学校

	児童の実態 (○いいところ ●課題)	指導方法	具体的な授業改善策
国語	○読書が好きな児童が多く、意欲的に取り組むことができる。 ○国語辞典や漢字辞典などを積極的に活用している児童が多い。 ○自分の考えを文章にまとめて書くことができる。	・朝学習の時間や図書の時間に、読書をするように声をかけている。 ・熟語や意味の分からない語句について、辞書を使って調べ、授業や家庭学習のなかで活用するようにした。 ・国語の時間以外にもさまざまな教科で、自分の考えや友達の考えを書く機会を作った。	
	●物語文を読み取る際に、登場人物の心情を理解して読み進めることが苦手な児童が多い。 ●説明文では、論理的に文章を読み取ることが苦手な児童が多い。	・教科書を読み、個人で読み取りを行っていた。 ・要点をまとめた板書を行い、ノートに書き写し、文章を読み取らせた。	・個人で考えた後に、グループで考えを交流し、個人の考えを深められるようにしていく。
社会	○写真やグラフから気付いたことをノートに書くことができる。 ○授業で扱った語句を使って単元のとめを記述することができた。	・書いていない児童に対して、机間指導で個別に声かけを行った。 ・記述用プリントを作成し、必要な語句を提示した。	
	●自分の言葉で表現したり、説明することが苦手である。	・学習したところを振り返り、ワークシートにまとめる時間や地方別の特徴とらえることができた。	・普段のノート作りから自分の意見をまとめられるようにし、友達と交流する時間を取り入れる。
算数	○一問一答問題等は最後まで意欲的に取り組める児童が多い。	・ワークテストやレディネステストの結果を参考にして、習熟度別にクラスを分けている。また、課題が早く終わった子には追加の課題を用意して、個々に応じた指導をしている。	
	●計算領域では、単純に計算だけを行う児童が多い。そのため、立式理由を理解していない。 ●図形領域では、図形を俯瞰的に見るのが苦手な児童が多い。また、教材・教具を使って、正確に作図をすることが苦手な児童が多い。	・補充プリント等を使い、正確に計算できるように指導した。 ・作図では、マスがついている作図プリントから学習し、マスのない作図プリントでも作図できるように指導した。	・児童が立式理由について考えられるような問題を考え、提示していく。 ・東京ベーシックドリル、ワークブック、作図プリント等を活用して、繰り返し作図する学習を行っていく。
理科	○実験に対して意欲的に取り組んでいる児童が多く、理科に興味をもつ児童が増えた。	・実験の方法を班で話し合う活動を取り入れることで、一人一人が考えをもち、実験できるように工夫した。	・児童生徒の学力向上を図るための調査の正答率が低かった問題を取り上げ、全員で解き方を考え、話し合い解答する授業を行う。
	●自分の考えをノートに書くことはできるようになったが、みんなの前で発表するのが苦手な児童がいる。	・個人の考えからグループ内で確認させて、自信をもたせて全体に発表させた。	・身近な生活から、理科が使われていることを活用する場面や導入場面で紹介し、理科を実生活に結びつけるようにした。
音楽	○楽曲のよさを感じ取り、どう表現したいか考えながら歌唱活動に取り組んでいる。 ○グループ活動に意欲的に取り組み、友達と協力して合奏をつくりあげようという意欲が感じられた。	・ワークシートを工夫し、曲を聴いて思ったことや感じたことを自分の言葉で表せるようにした。 ・グループの中での役割を明確にし、ひとりひとりに意欲をもたせるようにした。	
	●自分の思いがあっても、全体の場で発表したり、歌に表したりすることに消極的な児童が多い。	・ペア活動やグループ活動で、相手意識をもって表現することに取り組んだ。 ・一人一人の思いを書いて掲示するなどして、思いを全体に共有できるようにしている。	・学習活動、学習形態を工夫し、一人一人の思いを認め合い、安心して表現できるような環境をつくる。
図工	○課題に対して積極的に取り組もうとする児童が多い。	・児童が主体的に楽しんで取り組める題材を工夫した。	
	●自分の課題をもち、表現を深めようとする力には課題がある児童もいる。	・めあてを明確にして、自己評価をしつつ、自らの課題を深められるように工夫した。	・制作中のメモや授業の振り返りなどから、表現を深められるよう指導する。
家	○家庭科という新しい学習領域に新鮮な興味関心をもって、意欲的に取り組んでいる児童が多い。	・児童自身の日常生活の場面と、学習する知識や技能が結びつくことを意識させながら指導した。	

庭	<ul style="list-style-type: none"> ●実習での手順を正しく聞き取れない、もしくは聞き取れていても自信をもって実行に移せない傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材、教具を工夫して児童が視覚的に理解しやすくするようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵や図、動画などを掲示し、作業手順を随時繰り返ることができるようにする。 ・生活経験の個人差により手仕事が苦手な児童には根気よく反復練習をさせることを心がける。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ○準備が早く、意欲的に取り組む児童が多い。 ○ソフトバレーボールでは、課題と改善策をチームで話し合い、練習メニューに反映することができた。 ●運動能力に差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全員が参加できるよう、話し合う時間を授業に取り入れた。 ・鉄棒やマット運動では、難易度別に技を紹介し、得意な児童は挑戦、苦手な児童には、場の工夫（技ができるように）を取り入れて指導した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・準備運動に、体づくり運動を多く取り入れ、体を動かす心地よさを味わったり、体の動きを高めたりできるように授業計画していく。
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な活動に意欲的に取り組んでいる児童が多い。 ●自分の考えを英語で伝えることを苦手とする児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスルームティーチャーも児童と一緒に活動に取り組み、英語に親しむ手本となった。 ・インタビュー活動を授業の最初に取り入れ、自分の考えを英語で伝えることに慣れさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語を使って友達と関わる活動を多く取り入れる。 ・クラスルームティーチャーが積極的に英語を使い、間違っても英語を話してみることが大切だということを伝えていく。